

バッハ盤を聴く(8)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(8)—

1. 始めに

前報(7)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

harmonia mundi KUX-3012-H

J.S.バッハ 管弦楽組曲第 2 番・第 3 番

コレギウム・アウレウム合奏団

harmonia mundi ULS-3042-H

J.S.バッハ ブランデンブルグ協奏曲第 2 番・第 3 番・第 5 番

コレギウム・アウレウム合奏団

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

harmonia mundi 国内盤は、ZANDEN のリストでは、EMI、N、第 4 時定数 **Low** となっています。

管弦楽組曲第 2 番・第 3 番は、EMI、N、第 4 時定数 **Low** で違和感なく、ふくよかでしなやかな古楽器のアンサンブルが聴けます。第 3 番の G 線上のアリアのくんだりもしみじみとした表情の演奏です。

ブランデンブルグ協奏曲第 2 番・第 3 番・第 5 番は、EMI、N、第 4 時定数 **Low** で違和感なく、古楽器による、おだやかで落ち着いた表情の演奏です。また、チェンバロの繊細な音もよく再現されています。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上